

みのぶ道

駿河国から久遠寺を経て甲府に至る全長約80kmの道。久遠寺から奥之院思親閣、追分感井坊、赤沢宿、白糸の滝を経て七面山に至るルートは険しい修行の山道である。山梨県側では身延山周辺などが文化庁選定「歴史の道百選」に選ばれている。



1 敬慎院

延宝3年(1673)、標高1982mの七面山山頂付近に建立された堂宇(身延町指定文化財)で、裏には七面池が水を湛える。堂の前には拝殿、幣殿があるが、独特な建築様式で、通称七面造りと呼ばれる。七面山麓の登拝口から山頂までは4~5時間ほどの行程。

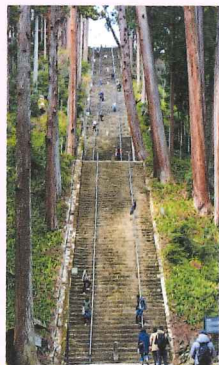


南部氏館址

波木井実長により身延山のほど近く梅平に築かれた居館。1983年に発掘調査が行われ、掘立建物跡や12世紀末の土器などが出土している。南部氏館址の西には実長の墓所がある。また、付近の鏡園坊は、実長二男の居所跡と伝わる。町指定文化財。



総門



ほだいてい菩提梯

2 久遠寺

鎌倉時代に、地元波木井郷の地頭、波木井(南部)実長が日蓮を招いたことにはじまる。実長は南部氏の祖と言われる南部光行の三男である。今も日蓮宗の聖地として多くの人が参詣に訪れる。参拝する際にまず通るのが総門であるが、これは寛文5年(1665)に建立された棟門(身延町指定文化財)。

参道をしばらく進むと表れる三門はそのスケールと精緻さに圧倒されるが、これは近代における禅宗様二重門の好例。国登録有形文化財。



3 奥之院思親閣

身延山の山頂にあるのが奥之院思親閣で標高は1153mをはかる。日蓮が東の安房の空を拝し父母や恩師を偲んだ場所と伝わり、弟子の一人日朗によりお堂が建てられた。現在の堂宇は前田利家の側室寿福院の寄進により寛永8年(1631)に建立された。町指定文化財。



本堂